

2020年11月22日(日)朝10:10

降誕前第5、自由交歓会等

11月第4共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：自分の十字架を背負って(24～)

聖書:マタイ 16章24～26節

<口語訳>

新約聖書26～27頁

マタイ 16章24～26節

<新共同訳>

新約聖書32～ 頁

マタイ 16章24～26節

<新改訳第3版>

新約聖書33～ 頁

マタイ 16章24～26節

<塚本訳>

新約聖書118～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ16:24～26節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**自分の十字架を背負って(24～)**」は、主が、「だれでも、わたしについて来ようと思う者は、(まず)己れをすてて、自分の十字架を負い、それからわたしに従え(24)」と、命じられたことばによるものです。
- ⇒「**自分の十字架**」を負うことは、当時の弟子たちが、他の**ユダヤ人指導者同様、ユダヤの復興**を果たして下さる政治的「**王なる救い主(メシヤ)**」に期待していたので、ペテロらの思い違いを正す必要を感じられた。
- ⇒「**自分の十字架を背負う**」ことは、完全な自己否定ですが、自分の意志や頑張りですることではなく、主の恵みによります。

本論；

◇本日、**マタイ書16:24～26節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ16章24～26節**；**使徒マタイ**は、「**自分の十字架を背負って(24～)**」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**16:24～28節**；**塚本訳◆十字架を負え**

「24 あとでイエスは弟子たちに言われた、「だれでも、わたしについて来ようと思う者は、(まず)己れをすてて、自分の十字架を負い、それからわたしに従え。

25 (十字架を避けてこの世の)命を救おうと思う者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るのだから。

26 たとい全世界をもうけても、命を損するならば、その人は何を得するのだろうか。それとも、人は(一度失った永遠の)命を受けもどす代価として、何か(神に)渡すことができるのだろうか。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ16:24～26節** ;では、「いのち」が、強調されていて、全世界を手に入れるよりも、大事なものであることが、主によって示されています。

⇒それは、「**御子イエス・キリスト様**」が、ペテロら主を愛し、信じて、主にお従いする人々のため、主が十字架を背負って下さるからです。

⇒また、主は、「いのち」を捨てて下さるだけでなく、新しい「いのち」に甦って下さるためでした。それによって、弟子たちははじめ主に聴き従う人々が、新しい「いのち」に生きるためです。「いのち」を軽んじることは、最大の罪です。

⇒「(十字架を避けてこの世の)命を救おうと思う者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るのだから」と、「**御子イエス・キリスト様**」は仰せです。

⇒**KT師**によると、マルチン・ルターが、「大胆に罪を重ねよ。しかして更に大胆に十字架を信ぜよ」と、逆説的に「罪人であることを恐れるな」と、語っているそうです。

⇒「たとい全世界をもうけても、命を損するならば、その人は何を得するのだろうか。それとも、人は(一度失った永遠の)命を受けもどす代価として、何か(神に)渡すことができるのだろうか」と、念を押すように、「いのち」の大切さを示し、「いのち」に生きることを励まされます。

⇒先に、ペテロが主を諫めた時は、「サタン引き下がれ、(主の道・神のお望みの道・生き方の)邪魔する者だ」と、叱責されましたが、ここでは、愛をお示しです。

⇒**SY師**は、ルカ9:23、マルコ8:34と比較し、群衆にも、語られたとしておられます。それほど、主のみことばに耳を傾ける人々には、「いのち」は、例外なく大切なものです。

⇒マタイ20:28【口語訳】

28「それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

⇒「**悪魔・悪霊**」は、自分の「いのち」が、主の与えて下さる「いのち」より大事に思わせます。そして、自己憐憫や思い煩いに入れます。

- ⇒「**マタイ16:26節**」で、主は、「たとい全世界をもうけても、命を損するならば、その人は何を  
得するのだろうか。それとも、人は(一度失った  
永遠の)命を受けもどす代価として、何か(神  
に)渡すことができるのだろうか(26)」と、語ら  
れましたが、「代価」は、「交換する代価」という  
意味で、**神の前**には、ひとりひとりの「**いのち**」  
の「交換代価」を払っても、「**交換のいのち**」は、  
ないということです。ですから、自らの悩みの  
ために、自分の「**いのち**」を「**悪魔・悪霊**」に  
差し出して、自らの「**いのち**」を断つのは、**神  
の前**に最も大きな罪であり、愚かなことです。
- ⇒ひとりひとりの「**いのち**」は、「全世界をもうけ  
る・手に入れる」より大事です。
- ⇒**KT師**によると、不倫をした夫の不倫の相手が、  
どうしても赦さなくて悩んでいたご夫人が、み  
ことばによって、自分の愚かさや罪を示され、  
悔い改め、以前より睦まじい関係なられたと  
いうことです。
- ⇒自分を改善できると思い込むのは、**神なき  
生活**なのです。「**御子イエス・キリスト様**」は、  
限りなき愛と真実をもって、伴われます。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ16:24～26節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**自分の十字架を背負って**(24～)」は、主が、「だれでも、わたしについて来ようと思う者は、(まず)己れをすてて、自分の十字架を負い、それからわたしに従え(24)」と、命じられたことばによるものです。
- ⇒「自分の十字架」を負うことは、当時の弟子たちが、他の**ユダヤ人指導者同様、ユダヤの復興**を果たして下さる政治的「**王なる救い主(メシヤ)**」に期待していましたので、ペテロらの思い違いを正す必要を感じられた。
- ⇒「**自分の十字架を背負う**」ことは、完全な自己否定、自分の意志や頑張りでなく恵みです。

⇒Ⅱコリント4:10～11;【口語訳】

10 いつもイエスの死をこの身に負っている。

それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

11 わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。